

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶をめざし、高い志と夢を持って、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。
- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる、リーダーシップを取れる人材を育成する。
  - 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
  - 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。

## 2 中期的目標

- 1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶
  - (1) 大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。
    - ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導方法の研究を行なう。
    - イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。  
※2020年度において、国公立大学合格者現役20%以上をめざす。
    - ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。  
※2020年度において、一日平均学習時間100分以上(2年生10月)を維持する。
    - エ 「槻の木 NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取り組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。
  - (2) 「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と部活動・学校行事の両立のための支援と指導を行なう。また、安全で安心して学校生活に取り組める環境を維持、発展させる。
    - ア 学習指導・生徒指導・進路指導などの学校経営において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。  
※2020年度において、遅刻者数府内最少レベルを維持する。
    - イ すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
  - (3) グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶に向けて、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取り組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。
- 2 先進的で他をリードする学校づくり
  - (1) 強い組織力による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導に取り組む。
    - ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。
    - イ 先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。
  - (2) 組織的な協働体制による学校運営の確立
    - ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるよう改善に努める。また、教員がより多くの時間で生徒対応できるように業務のスクラップ&ビルドを進める。
- 3 保護者・地域から信頼される学校づくり
  - (1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入れてよかった」と、地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。
  - (2) 広報活動、情報発信の充実に努め、保護者・地域との信頼関係を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識、自尊感情の醸成	<p>(1) 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現</p> <p>(2) 高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の高揚</p> <p>(3) グローバル人材の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・カリキュラムの検証を進めるとともに、「体験・発表型授業」を実施する等、主体的・対話的で深い学びの実現を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「教科 Can-Do リスト」や「教科シラバス」の精査に努め、指導と評価に係る研究を進める。</li> <li>新学習指導要領を研究し、本校のカリキュラム改編を進める。</li> <li>生徒の学力を、学力生活実態調査、英語学力調査で分析し進路指導の参考とする。</li> <li>職業観、勤労観育成のための取り組みを行うとともに、校内での大学個別説明会を行うなどして進路指導の充実を図る。</li> </ul> <p>イ・生徒の学びに向かう力を育てるとともに、学力向上のための教員研修の充実、生徒面談の充実を図る。</p> <p>ウ・課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。</li> </ul> <p>エ・「槻の木 NEXT STAGE」の取組みを継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・遅刻数の府内最少レベルをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。</li> <li>学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。</li> </ul> <p>イ・保健課を中心に、相談室委員会、学年、教科担当者等が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全で安心な学校づくりのための教職員研修を実施する。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「槻の木 NEXT STAGE」の一環として国際交流に取組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。</li> <li>学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取組により、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断で「カリキュラムに係る満足度」85%以上を維持。(H29:86%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断で「授業満足度」80%以上を維持。(H29:81%)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領や高大接続改革に係る職員研修の実施。</li> <li>学習指導室(進路、教務)、学年が協力して、進路実現を支援する。</li> <li>学校教育自己診断で「進路について考える機会がある」90%以上を維持。(H29:90%)</li> </ul> <p>イ・国公立大学現役合格15%以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面談回数年間総数約1000回を維持する。(H29:約1000回)</li> </ul> <p>ウ・一日平均学習時間30年度2年(10月)、平日・休日平均100分。(H29:平均94分)</p> <p>エ・参加生徒の満足度85%以上(H29:90%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・年間遅刻者数600人以下(H29:634人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」生徒・保護者95%以上の維持。(H29:生徒96%保護者97%)</li> </ul> <p>イ・保健課を中心とした教育相談体制の整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員研修の開催。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「槻の木 NEXT STAGE」でオーストラリアへの海外研修旅行、東京研修を実施。</li> <li>参加生徒の満足度85%以上。</li> <li>学校教育自己診断で「学校行事に係る肯定的回答」80%以上を維持。(H29年80%)</li> </ul>	
2 先進的で他をリードする学校づくり	<p>(1) 強い組織力による学校力の向上</p> <p>(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教科会を定期的に開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互授業見学、教員研修を行う。</li> <li>授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。</li> </ul> <p>イ・先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。</li> <li>カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営を効率化するため、運営委員会中心の学校運営を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」68%以上。(H29:63%)</li> </ul> <p>イ・先進校視察、研修参加の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝達研修、教職員研修の実施。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断「生徒指導に係る肯定的回答」80%以上を維持。(H29:82%)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」70%以上。(H29:65%)</p>	
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入れてよかった」学校づくりの推進</p> <p>(2) 保護者・地域との信頼関係の向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、PTA活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得よう努める。</li> <li>トイレ等の施設改善に努め、より安全な学習環境の充実に努める。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育活動の全般について、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、信頼にたる学校づくりを推進する。</li> <li>ホームページの充実、メールマガジンの発信などにより、学校教育活動への理解と信頼を促す。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「入って(入れて)よかった」生徒77%以上(H29:74%)、保護者90%以上。(H29:89%)</li> <li>学校教育自己診断(保護者)「学校行事に参加したことがある」85%以上。(H29:84%)</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの適宜更新。</li> <li>メールマガジンのタイムリーな発信。</li> </ul>	